

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009.6.13～14（徳島大学）
 企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：子育てバリアフリー	
日付： 6月 14日（日）曜日，セッション時間： 10:10～11:40	
オーガナイザー・司会者名（所属）：谷口綾子（筑波大学）、大森宣暁（東京大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体： 参加者は約 25 人。 高齢者・障害者のバリアフリーに関しては、社会的問題としてこれまで対策が行われてきた。しかし、子育てに関しては、それに加えて個人の対応によりクリアできる問題も多く、バリアの性質の違いを整理する必要があるという意見があった。自治体の方からは、子育てに関する対応は、行政の中でも多様な部局に分かれており、その縦割り組織がハードルになっている部分も多いという意見があった。またハードで対応すべき部分もあるが福祉機器で対応できる部分もある、子育ての期間が短い、やはりバリアの整理が必要だという意見があった。</p> <p>また、子育て中の親の要望が、より高いレベルを望むようになってきており、どこまでが行政の役割なのかについてのコンセンサスが今後必要になるという意見もあった。子育ては社会的ジレンマであるという議論や、メタ・メッセージを提供することのない子育て支援策が必要であるとの意見もあった。</p>
	<p>（259）谷口綾子（筑波大学）： 子育て従事者の職業・環境の歴史の変遷および子育て時の外出手段の歴史の変遷を、文献レビューを通して整理した。これらの環境は、戦後大きく変化して、現在に至っていることが明らかとなった。現在の特徴として、女性の人生に占める子育て期間が大きく減少し、子育てのノウハウに関する情報が伝承から商業ベースになっており、ベビーカーの登場により外出しやすくなった一方で派生する新たな問題も発生してきている。</p>
	<p>（260）Lili Xu（広島大学）： 総務省の社会生活基礎調査の3時点（1996、2001、2006）のデータから、子育て中の女性の時間利用についての分析を行った。</p> <p>“social childcare”とは、保育園等の子育てサービスであり、“extended social childcare”とは延長保育などであるなど、用語の定義に関する質疑や、子育てサービスの利用意向と時間利用との関係等についての議論があった。</p>
	<p>（261）寺内義典（国土館大学）： 街路空間に対する子どもの好き嫌いの意識を分析した。</p> <p>遊びの経験による違いはあるのか、子供の好き嫌い大人の好き嫌いは異なるのではないかと、調査時の雰囲気の影響しているのではないかと、昼や好きだけ夜は嫌い、母親と歩くから好きなどもあるのでは、通過交通と住民の車の速度は変わらない、大人が子供にいかに配慮するかが重要である、などの議論が行われた。</p>

(262) 真鍋陸太郎 (東京大学):

インターネット上の子育て情報に関する既往研究のレビューを踏まえて、「カキコまっぷ」の子育てバリアフリー情報掲示板としての役割に関する考察が行われた。

一人目が生まれ、まだ地域にコネクションがない時や、地元ではなく隣駅など少し離れた場所の情報などに、特に有効ではないのかという議論が行われた。

(263) 大森宣暁 (東京大学):

子育て中の外出活動へのバリアの分類と、子育て中の母親 1,000 人に対するアンケート調査の結果の一部が報告された。

どこからどこまでがバリアなのか、統一的な理念はあるのか? という質問があり、今回のバリアは困っていることという程度の意味であり、どこまでは行政で対応すべきで、どこからは個人で解決すべきものかなど、今後、整理が必要である。

発表件数に応じて適宜追加してください。